

備南の珍石Ⅱ

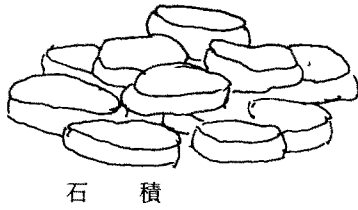
七 森 義 人

1、初めに

珍石と云う名称にしたが、此珍石とは、磐座を中心とする古代の石信仰と、中近世の石神信仰を合わせもったものと解釈していただきたい。

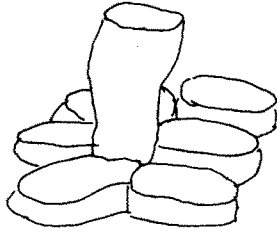
A 磐座とは 図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ参照

古代の石信仰の一つであり、石は硬く、永久不変である事から信仰が生じた。縄文時代の石積、配石、立石等が源流とされ、それが弥生と続き、古墳時代に、人を埋葬しておらず、祭祀遺物が石に伴われているも



石 積

図Ⅰ



配 石

図Ⅱ



立 石

図Ⅲ

のを磐座と云っている。(しかし、此では、遺物を伴わないが、磐座と思われるものを取り上げている。)

B 古代の信仰

前記で磐座について述べたので、此では他の信仰から磐座へと、変わっていったものについて記してみる。

A、山の信仰 図Ⅳ、Ⅴ参照

神奈備型と浅間型の二種があり、浅間型とは富士山に代表される高山で人が近づけない事から、神の住む世界と考えてその山を信仰したもので、此付近では四国の石鎚山が著名である。

神奈備型とは、奈良県の三輪山が代表されるが、集落に接した小山や独立丘で円形の美しい形をしており、空に近く、神が降臨する場所と考えて、此を聖地化する。此付近では神辺、甘南備等、神奈備と云う名称に似た地名や、三諸、御室等、奈良県の三輪山に似た地名が神奈備山で有る事が多いので、神辺町の黄葉山や府中市の三諸山がそれと思われる。又、神奈備、浅間型の山を望む場所を神聖化し、磐座等を築く。

最初は、山そのものを信仰し、麓から遥拝していたが、日本に仏教が

入り、神社の成立が始まり、拜殿が出来て、次に神の住む場所として、本殿が出来る。それと共に山林仏教の影響で、人々が山に入っていくようになり、里にある元の聖地が、山全体の信仰から、山頂に神が降臨すると考えて、山頂に磐座を築く様になる。此に後に神社が建てられて、麓の本宮、中腹の中宮、山頂の奥宮となっていく、此は山のみでなく、海の信仰にも此は影響していく。

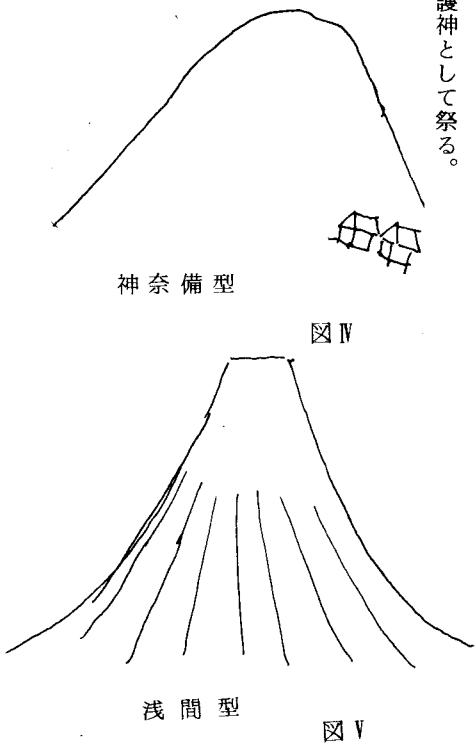
イ、巨岩

此が磐座として成立していくもので前記している。

石を加工したり、立てたり、周辺に石を配したり、小石を敷きつめたりしているものもある。

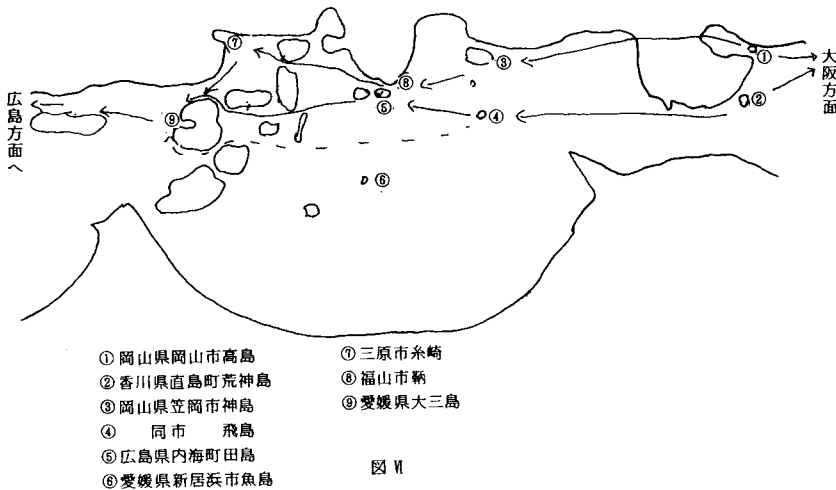
ウ、生産神

水神、豊作神等で、水が涸れない事を祈り稲作の豊作を祈り、水の湧く所、川の上流、田の付近で祭り、磐座等を築く、又、集落の外は悪霊の世界と考えていたので、集落外から悪霊が入って来ない事と、集落の守護神として祭る。



エ、交通神 図Ⅵ参照

古代での瀬戸内の航海は、満潮と干潮を利用して航海し、嵐等を恐れて、海神、島神に航海の無事を祈り海に供えたり、島に上陸して、供えたりして祭った。瀬戸内海では沖乗り方法と地乗りして祭った。



- ① 岡山県岡山市高島
- ② 香川県直島町荒神島
- ③ 岡山県笠岡市神島
- ④ 同市 飛島
- ⑤ 広島県内海町田島
- ⑥ 愛媛県新居浜市魚島
- ⑦ 三原市糸崎
- ⑧ 福山市新
- ⑨ 愛媛県大三島

図Ⅵ

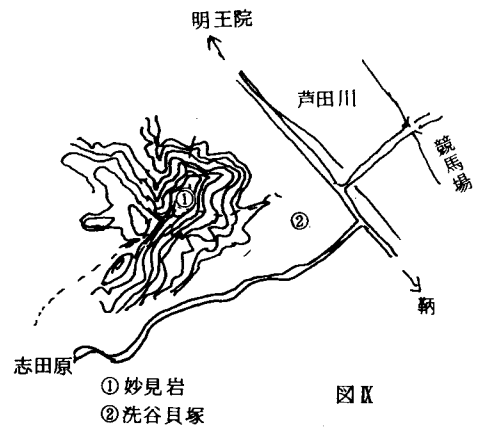
り方法があり、岡山県岡山市の港外の高島^{注3}を行き、児島半島（此ころは島であったと思われる）の間を通るか、香川県直島町の荒神島の沖を通り、笠岡市の神島沖^{注5}か、飛島沖^{注6}を通り、鞆を経て、沼隈と田島の間を通り、三原市の糸崎を経て、蒲刈諸島の御手洗を経るか、因島か、岩城島を通り、大三島^{注7}を通って行ったと思う。

2、各論

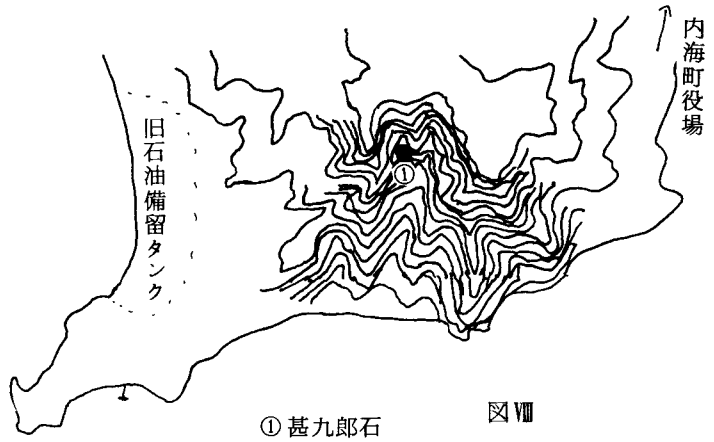
A、高丸磐座 福山市箕島町高丸 図Ⅶ、参照

各々の石の高さは1m以下で広さは約2m以下ぐらいで、下に5つぐらい、上に3ぐらいの二段重ねとなっている。石そのものは自然石を積んだと云う様な感じである。^{注8}

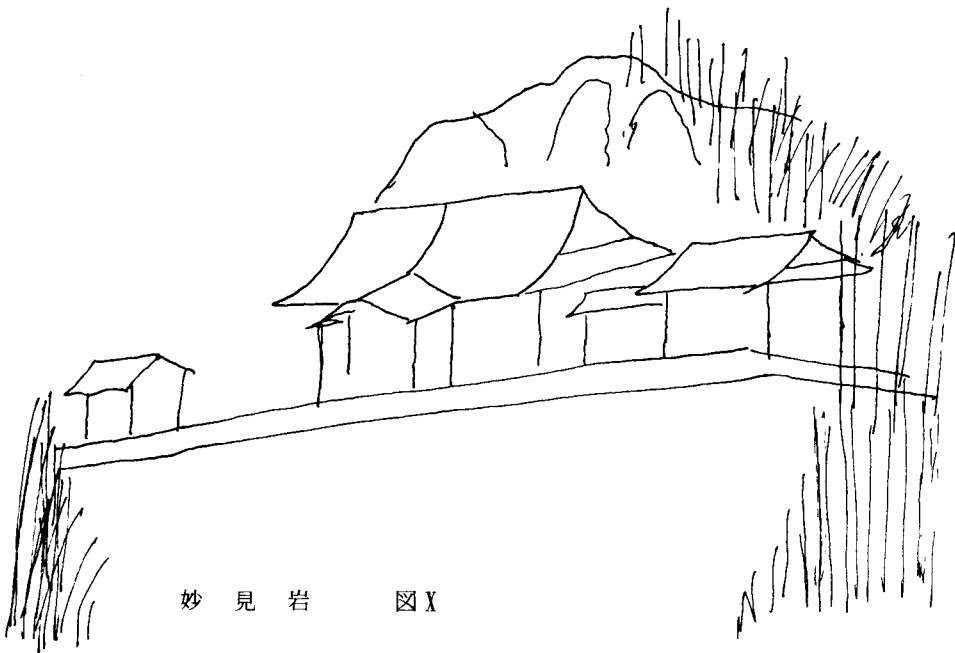
葛城神社の前に有り、本殿は無く、拜殿のみで、水呑町の葛城山^{注9}を望み得る。水呑町の葛城山を神体山^{注10}として拝み、此に磐座を築いたのであろう。祭祀をしていた人々の集落は、箕島町の片島に古墳群が有り、福禅谷に銅剣が出土しているので、此銅剣出土地付近に集落があったと思われる。



B、水呑町妙見岩 福山市水呑町妙見 図Ⅷ、Ⅹ参照
 妙見神社の裏山（岩）の事である。裏山頂の巨岩群、建物の横にある巨岩等で、その総称を妙見岩と呼称する。（もともと一つ一つの岩にも名称があるのであるが）岩そのものを信仰していたのではなくて、麓から見て此山全体を神体山として拝していたのではなからうか、それが後に裏岩群の巨岩信仰になり、水呑町に日蓮宗が布教されて、ずっと後に、此に妙見神社が建てられた。しかし、妙見神社の建てられている所



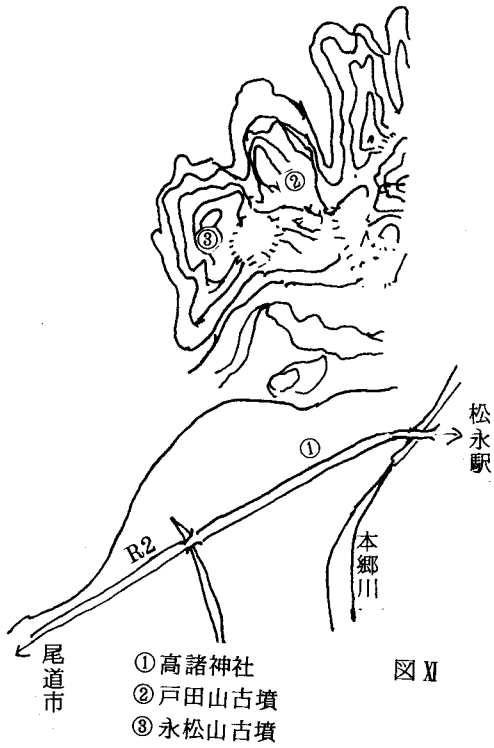
には何故か、巨岩群の有る所が多い。妙見信仰は道教の北斗信仰が、仏教に取り入れられたもので、もともと自然信仰であるから、それが巨岩と云う自然信仰と同調されたのであろうか。
 注11



C、高諸神社の磐座 福山市今津町 図Ⅹ、ⅩⅡ参照

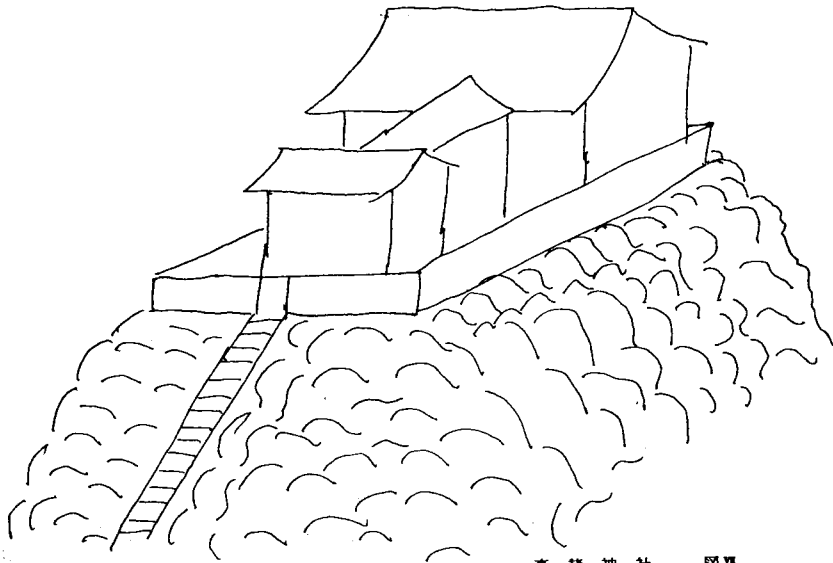
戸田山古墳群の山と永松山古墳群の山の南に派生した丘陵の最端部に位置し、南は元々海である。尾道市の浦崎半島を眺む様な位置し、松永湾の最奥部にある。

磐座そのものは現在の社の下の岩盤の事である。此神社は式内社と比定されており、北に古墳群等が多数有り、古くから栄えていた地と思う。此岩盤の上にも配石遺構が有る。つまり、岩盤を祭っていた人々が後に岩盤上に人工的に配石をして此を祭り、更に、神社を建立すると云う時代変遷を伴って人々の祭祀方法が変っている。



図Ⅹ

- ① 高諸神社
- ② 戸田山古墳
- ③ 永松山古墳

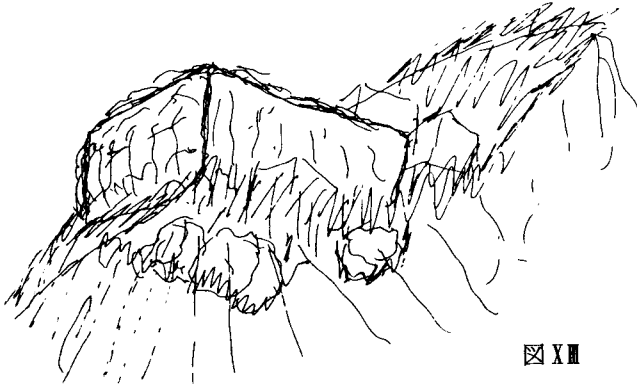


高諸神社 図ⅩⅡ

D、横島の甚九郎石 沼隈郡内海町横島 図Ⅶ、Ⅲ、X、XⅣ 参照

横島の沼隈町側ではなくて外海側の山の尾根に有る。石の大きさは高さ5mぐらい、広さ20畳ぐらい（石の上に登れるはずであるが、雑草等により、登れなかったが、道の上より見てこのぐらいの広さと思う。）此岩の下にも小甚九郎石と云う巨岩が有る。

此付近及び麓にも人家は無く、此島のずっと南に魚島が有り、此で祭祀遺物を出土し、航海関係の遺跡と考えられているので、航路は、田島と沼隈町の間を通っていたと思われるが、一般航路として、横島の沖を通るものもあったと思う。此横島より魚島を見れば、島の形が神奈備型をしている。

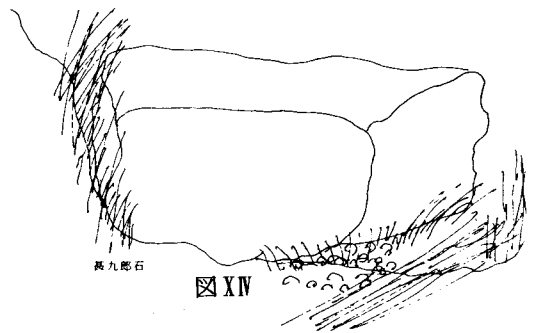


図Ⅲ

3、最後に

此で書いているものは、磐座そのものの信仰がほとんどされていないものが多い。県北では比婆山の刻彫岩や、庄原のピラミッドが話題になり、共に一時信仰が衰えていて、麓の神社の方に祭祀の中心が移っている。此様に、麓で祈っていた祭祀が奥の神聖化を求めて、山頂へ移り、更に、人々の集落へと、麓へ祭祀の中心が移っていった。

- 注1 満潮や干潮を自由に動かし、島の砂洲を伸縮させたりする事のできる神様と考えて、船で航海する時に無事に航海できる様に祈った。
- 注2 陸では峠を自分の住んでいる神の世界から別の世界の接点と考え



て、神へお供えをする。

それと同じ様に、海では自分の住んでいる海の世界から別の神が支配する接点として島を陸での峠と同じ様に考えたり、又、海神と同じ様な事が出来る神とも考えた。

注3 5、6、7世紀頃の祭祀遺物が発見されており、磐境と呼ばれる巨岩も有る。

注4 祭祀遺物が有り、磐座と思われる巨岩も有る。

注5 遣唐使の一行が此へ寄港して詠んだとされる歌が有り、式内社も存在する。又、神島沖の高島には黒土遺跡、王泊遺跡が有り、特に王泊遺跡は東海地方の土器や九州地方東南部の土器が出土し、遠隔地域の土器の搬入が行なわれており、海上交通の重要な泊地と思われる。

注6 大飛鳥遺跡と云う8世紀から鎌倉時代までの祭祀遺物が出土し、奈良時代の重要な祭祀遺跡と思われる。

注7 大山祇神社が有り、弥生時代からの祭祀が行なわれ、海の守護神としても著名である。

注8 神社には神が住んでいる家と考える本殿とその神様を拜む場所として拝殿の主に二つは有る。

注9 奈良県と大阪府の境に誇る山で、南の全鋼山から葛城山を径て北の二上山までの総称を葛城山と呼ぶ。その山に葛城神、又は、一言主大神が降臨すると考えて、その山を崇拜した。それが後に、修験道の役ノ行者が葛城山で修行をしていた為に、修験道の聖地

となり、後に此らの神社が、修験道の影響等から各地に勧請されて葛城神社が建てられ、その御神体を葛城山と称した。

注10 神様は天界に住んでいると考えられている。それが地上に降臨した時に宿る物を御正体、又は、御神体と称した。その神の宿る物が山そのものであった時に、その山を神体山と称する。

注11 仏教は釈迦によって開られたが、すでにヒンドゥー教と云う民族多神教が広まっていた、そのヒンドゥー教の中の神を仏教に取り入れて菩薩となった様に、仏教が中国に伝来した時に中国の民族多神教である道教の中の教えを取り入れた。北斗七星を神格化して妙見菩薩と称して、その妙見菩薩を日蓮宗では重要に考えて、日蓮宗の布教と共に広まり妙見社が建立された。

注12 製塩土器を多量に出土した満越遺跡が有る。

注13 九二七年に出来た延喜式神名帳に記載されている神社の事で国が管理していた。

注14 戸田山、永松山、長波等に多数の古墳と弥生式土器も出土し、此付近に集落があったと考えられる。

注15 大木祭祀遺跡と云われ、弥生時代から古墳時代の土師器系の粗製土器や、鏡の模造製品白玉と青銅鏡が出土している。

注16 ピラミッド？と云う名称は気に入らないが、此山を神体山として北方に有る遺構群から祭祀していたと思う。